

## 第2章 調査結果のまとめ

以下、アンケートの構成にそって、回答の特徴的な傾向や、地域福祉保健計画の視点で着目すべき点などをまとめる。

### ① 回答者属性

- ・アンケートでは、各地区、各年齢層からの回答が得られたが、回答者の65歳以上の割合は4割を超えており、シニア世代から積極的な回答があったと考えられる。
- ・地区別にみると、長津田地区・新治中部地区からの回答が多く、この2地区で約4割を占めている。世帯構成は、全地区で「親と子（二世帯）」が多くなっている。また、東本郷地区や新治西部地区、鴨居地区、十日市場団地地区、長津田地区は「ひとり暮らし」の割合が多くなっている。全地区で居住歴が「10年以上」の人が多いが、中でも竹山地区では「10年以上」が88.9%と多くなっている。十日市場団地地区や長津田地区は居住年数10年未満の回答が他地区と比べて多く、居住年数の浅い住民が多くなっている。

### ② 各設問の結果のまとめ

#### 地域との関わり

- ・自治会加入率は、前回調査（81.2%）よりも若干下がった（80.5%）とはいえ、8割以上を維持している。
- ・自治会と近所付き合いの関係でみると、自治会に加入していない（12.6%）より加入している（36.7%）方のほうが近所付き合いは頻繁であることが伺える。また加入していない方で「近所の人とは全く付き合いがない」と回答した方は18.1%となっている。
- ・近所付き合いが頻繁にある方（31.9%）に比べて、近所付き合いが頻繁ではない方（64.0%）が約2倍多くなっており、隣近所という日常生活における身近な関係間の希薄化が進んでいることが分かる。
- ・地域に困っている人がいる場合に、現在手助け、または今後手助けできることは、安否確認の声掛けや話し相手・相談相手が多くなっている。現在よりも今後手助けできるという回答数が多く、意向はあるが実行できていない方が多いことが分かる。

#### 地域活動の場

- ・地域活動への参加意向は、「子どもから高齢者までが集える地域活動」や「花植え・清掃活動」は、現在及び今後も参加者または担い手として参加しやすいことが分かった。また、上記の二つに加えて、「健康づくりの活動」は参加者として、「高齢者を支援する活動」は担い手として今後参加したいと思う回答が多くなっている。
- ・地域活動に参加できない理由として、「仕事や家事などで時間がとれない」は40歳代（40歳～49歳）、「興味・関心がないから」は20歳代（20歳～29歳）の回答が多くなっている。「病状や体力の面で難しい」は75歳以上の回答が多くなっている。

#### 福祉保健に関する情報

- ・地域の福祉保健に関する情報の入手先では、従来からある手段である「回覧板や掲示板」を6割近く（56.8%）の人が回答し、次いで「広報よこはま」（48.7%）、「地域のタウン誌」（20.8%）が多くなっているが、年代により例えば、20歳代は「家族」、30歳代

は「インターネット」の回答が多いことから、世代に馴染んだ福祉保健情報の入手手段の需要はさらに高まることが考えられる。

#### 地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の認知度

- ・「知らなかった」が7割近くを占め、認知度は低い。平成26年度調査から、認知度割合は若干であるが増えている。
- ・みどりのわ・ささえ愛プランや緑区社会福祉協議会、緑区内の地域ケアプラザの認知度を自治会加入状況別にみると、加入者の方が、非加入者に比べ知っているという回答した選択肢が多くなっており、自治会を通して福祉保健の資源と接していることが分かる。
- ・みどりのわ・ささえ愛プランの認知度を年齢別にみると、年齢が上がるにつれて認知している割合が多くなっていることが分かる。

#### 安全安心

- ・災害時に関して必要な取組として、顔の見える関係づくりは「必要」という回答は、8割を超える回答と多くなっている。顔の見える関係づくりのために必要なことは、「近所でのあいさつ・声がけ」(89.3%)や「近所での日頃からの付き合い」(54.8%)、「自治会活動への参加」(43.3%)への回答が多く、身近な環境の方達との日頃からの関係づくりが必要である回答となっている。
- ・防犯に関して必要な取組としては、「防犯パトロールなど身近な犯罪被害の防止のための活動」(68.2%)が最も多く、未然防止活動が必要とされている。次いで、「防犯に関する情報交換や防犯情報メール配信」(37.8%)と「交通安全運動や放置自転車対策など、安全に外出できる環境づくりの活動」(26.5%)となっており、情報の提供や啓発に関わる取組についての回答が多くなっている。

#### 健康

- ・日頃から健康のために心がけていることをみると、「適度な運動をする」(60.4%)をはじめ、「バランスを考えた食事をする」、「適度な休養・睡眠をとる」、「定期的に検診や健康診断を受ける」、「タバコを吸わない(または受動喫煙を避ける)」などの項目で5割以上の回答があり、健康のため多くのことを心がけていることが分かる。また「お酒を飲みすぎない(または飲まない)」や「バランスを考えた食事をする」など男女によって差がある項目があることも分かる。
- ・自身の健康のために参加したいと思う活動を年齢別でみると、20歳代および30歳代は、他の年代に比べて「参加したい活動はない」の回答が多い一方で、65歳以上は、「体力測定・健康チェック」や「健康づくり体操」、「ウォーキングなどの運動や交流イベント」などの回答が多く、高齢者の方は健康への活動への参加に積極的であることが分かる。
- ・人間ドック・特定健診・がん検診等の受診について、年齢が上がるにつれて受診経験が多くなり、「受診したことはない」の割合が少なくなっている。

### ③ 自由回答

自由回答の設問については、2割を超える記述があった。

自由意見をテーマ別に分類したところ、最も多く意見があったのは、「道路・交通・まちづくり」に関連する意見で全体の約 25%を占めている。次いで「地域活動全般」、「行政施策（福祉）」、「生活環境」に関連する意見が多かった。

#### <自由意見をテーマ別に分類した一覧>

- 1 「地域活動全般」に関連する意見
- 2 「自治会活動」に関連する意見
- 3 「活動交流の場」に関連する意見
- 4 「見守り活動」に関連する意見
- 5 「防犯・防災」のまちづくりに関連する意見
- 6 「情報伝達」に関連する意見
- 7 「行政施策全般」に関連する意見
- 8 「行政施策（福祉）」に関連する意見
- 9 「道路・交通・まちづくり」に関連する意見
- 10 「公園・河川」に関連する意見
- 11 「生活環境」に関連する意見
- 12 「その他」